

「鳶」の記章制定

記章制定委員会

「コミュニティセンター」が新しく建築されるにあたり、「鳶」の記章を制定する「ことになりました。

委員会で検討しました結果、昭和の初期、小学校の校章として制定され、時の流れの中で多少の変化はあったものの、広く地区の皆さんに親しまれている「鳶」の姿を基本にして、新しくデザインすることになり、今回完成しました。

作図の意図は次の通りです。

マスコットキャラクター（幸福をもたらす守り神として、大切にしている小動物）として、鳩のように可愛い鳶を描く。

眼、頭、羽根は鳩、くちばし、胴体、尾は鳶。

イメージは、地区名「鳶」の「鳶」のように、高く広い見識を持ち、志高く、悠々と生き、しかも「鳩」のように平和を愛し、みなから愛される、そういう人達が集まる「こと」を表す。

羽ばたきを表すため、リングの外に羽根の先端の一部を出す。

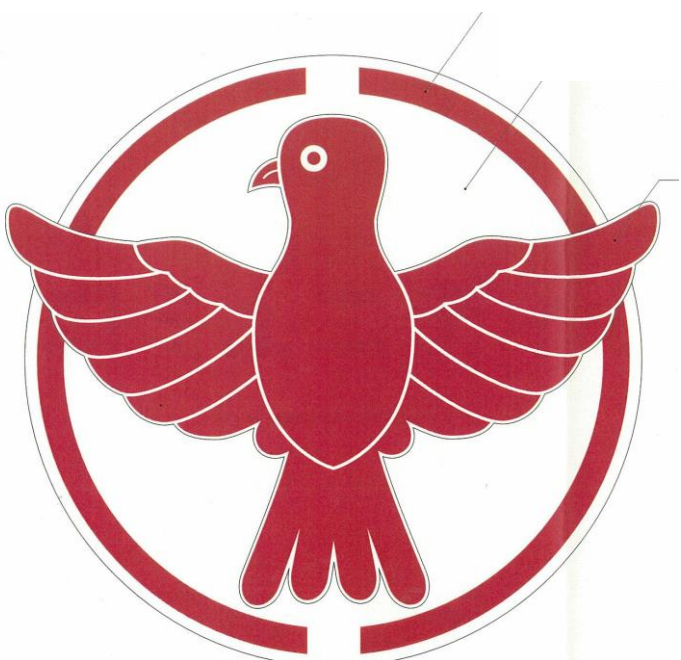
鳶地区は昔から東林木と西林木で成り立ち、鳶を支えている。

その「こと」を鳶を囲むリングで表現する。

色は、基本的に鳶とリングの部分をエンジシ色で表す。エンジシは、地区の色として皆さんから認められている色である。文化の積み重ねを表す色だと本に記されている。古い伝統に輝く鳶に相応しい色である。

バックの色は特に指定はないが、地区の色のエンジシをバックにしたい時は、模様の部分を金色、銀色、オレンジ色などを使って良い。

以上が、鳶の記章制定委員会での決定事項です。「ハットトン」や「びんま」呼びたくなるような可愛い鳶です。



付記

- ☆ リングと鳶はエンジシ
- ☆ バックは白色のままとする。